



校外学習の取り組みが始まりました!

先週木曜日に校外学習の実施要項説明および、学年目標が実行委員より発表されました。2学期最後のこの神戸班別行動学習は、修学旅行につながる大切な行事です。一人一人が責任を持った行動をとることを心がけ、自分たちの手で成功させましょう。

校外学習の学年目標

「**青**学年の輪を広げ、自立する力を身につけよう！」



<各クラスの目標>

1組 「お互いの色を大切に、一人一人が協力し臨機応変に行動しよう。」

2組 「一人一人が責任を持つ校外学習にしよう。～Let'enjoy～」

3組 「ルールを守って楽しく思い出に残る校外学習にしよう。」

4組 「K(協力) O(大きく成長するために) B(Best) E(Effort)！」

5組 「深めよう2 - 5の絆、つくろう2 - 5の輪」

6組 「未来への一步in KoBe」

～朝NIEより～

☆人を叱ることと、人を怒ることは似ているけど、違うと思いました。叱るということは叱る相手が間違っただけのことをしていたりするときに、それをやめさせようとするものだけど怒るということは、相手のことを考えているのではなく、第一に自分が腹が立ったから怒る、むかつくから怒るなど、自分の感情が第一なので、学校の普段の生活でも、自分はあまり怒らないようにしています。でも、腹が立つ事は少なくともあるし、全く怒らないということは難しいので、せめて人や、物にあたらないようにしようと思っています。それと、相手を思い、注意することはしていきたいです。



か決められません。叱られても、そこから成長できると思います。

☆自分も怒られているときは真一くんみたいに思っていて、先生うざいな、はよ終われかなとすごく思います。でも、先生はだいたいの人が僕たちの倍近く生きているから、僕たちより判断力があり、何が良いのか悪いのか分かっています。でも、僕たちはそれが分からず、問題につながるのだと思います。だから、筆者が言っているとおり、叱ってくれるのは僕たちを正しくしてくれるためのものだと思います。だから怒られて腹を立てたりあとからぐちぐち言うのではなく、それを素直に受け止めたいと思います。これからも怒られることはたくさんあると思います。失敗は成功のもののように、失敗して怒られて自分を正しくしていきたいと思います。でも、失敗しすぎてずっと怒られるのは嫌なので、ある程度の失敗は自分で押さえようとも思いました。

☆何回も叱られると、何もかもが面倒臭くなり、全てが中途半端になってしまうと思います。ですが、厳しい言葉の本来の意味を理解することで、今までよりも頑張れるようになる、私は思います。本当に自分のことを信じて待っていてくれる人だからこそ、厳しい言葉で叱るのだと感じました。信じていない人に「怒る」「叱る」というエネルギーのいる行動をしないと思うので、相手を信じている人が強く叱れる人だとこの文章を読んで感じました。最初は理解できなくても理解でき、実行することができれば、お互いの信頼関係を築くことにも繋がると私は思っています。この文章で厳しい言葉の本当に伝えたい意味を知ることができました。

☆この記事を読んで、怒られたら人は誰でも嫌な気持ちになります。でも、怒ってる人の側は、もっと辛くて、もっと嫌だと思います。怒っている人はその人のことを思って怒っていると思うから、逆に感謝した方が良いと思いました。W3というのは初めて読んだけど、自分と共感するところなどがあってとてもおもしろいし、何か気づかされるなあと思いました。自分の中で理解できないことは一人で抱え込まず、誰かに相談をするなどしたら、自然と楽になると思います。これから怒られたり、怒ったりなどたくさんあると思うから、この記事を忘れないようにしようと思いました。